



休耕地を、未来への「資源」へ

子どもたちの学びと地域の未来を育むフラワーガーデンプロジェクト

ただの「きれいな場所」ではありません。

私たちの原点：休耕地という地域の課題

休耕地とは？

かつては作物を育てていたが、農業の担い手不足などにより使われなくなった土地。

- ❦ 雑草だらけになり、地域の景観を損なう。
- ❦ イノシシやシカの隠れ場所となり、畑を荒らす原因になる。
- ❦ 地域の元気が失われていくイメージにつながる。



使命：地域課題の解決から、持続可能な仕組みへ



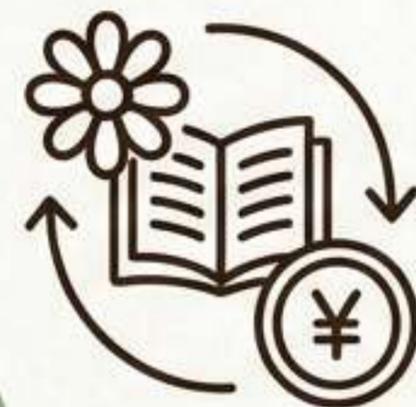
地域課題の解決

休耕地を再生し、
社会的価値を創造する。



未来への投資

子どもたちが社会と
繋がる原体験を提供する。



持続可能な仕組み

自然、教育、ビジネスが
連携するモデルを学ぶ。

この花畑で、子どもたちが得る「4つの学び」



1. 社会とのつながり

地域課題を「自分ごと」として捉え、当事者として関わる体験。



2. 自然を育む視点

美しい景観を「眺める側」から、それを支える「育てる側」への視点転換。



3. 生態系の循環

多様な生き物が支え合う「景観づくり」を通じた、リアルな環境学習。



4. 持続可能な仕組み

自然とビジネスをつなぎ、価値を生み出す仕組み（SDGs）を体感。

五感で学ぶ、冒険の1日



0:00-0:15 | 集合・開校式

今日の冒険の始まりを告げ、期待感を醸成。



0:35-1:20 | 現場体験① (苗植え/花がら摘み)

五感を使って土に触れる。
レクチャー内容を実践で確認。



1:35-2:20 | 現場体験②

集中して作業に取り組む。
チームで協力する大切さを学ぶ。

0:15-0:35 | レクチャー

これから始まる体験の「なぜ？」を伝え、知的好奇心を刺激。



1:20-1:35 | 休憩&機材実演

農業の「すごい技術」に触れる。
移植機やトラクターの力を知る。



2:20-2:35 | 閉校式・解散

1日の学びを振り返り、達成感を分かち合う。



地球の生命を支える、植物という「生産者」

炭酸同化作用＝光合成

植物は、空気中の二酸化炭素を使って自分の体（栄養）を作る、地球で唯一の「生産者」です。

結論

すべての動物のエネルギーは、元をたどれば植物が作った栄養に行き着きます。

植物がいなければ、生態系は成り立ちません。この花畑での活動は、生命の根幹に触れる体験なのです。



花畑は、生きものたちのアパートメント

生物多様性とは、いろいろな種類の生きものが、互いに関わり合いながら生きていること。この花畑は、まさにその縮図です。

① レストラン

花の蜜や花粉は、ハチやチョウのごはんになる。

② おうち

葉の根元や茎のそばは、小さな虫たちの隠れ家になる。



③ 出会いの場

虫を食べに鳥がやってきたり、鳥のフンから新しい植物の種が運ばれたりする。

なぜ「花がら摘み」を？ 小さな作業に宿る、大きな学び

植物の目標は、花を咲かせた後、子孫を残すための「種」を作ることにより全エネルギーを使うこと。
では、なぜ私たちはその手伝いをするのでしょうか？

そのままの場合



花がら摘みをした場合



しおれた花びらを取り除くことで、植物は種づくりではなく、次の花を咲かせることにエネルギーを使えるようになります。これは植物を元気にし、長く美しい景観を保つための「魔法」です。

自然が教えてくれる、生きるための知恵

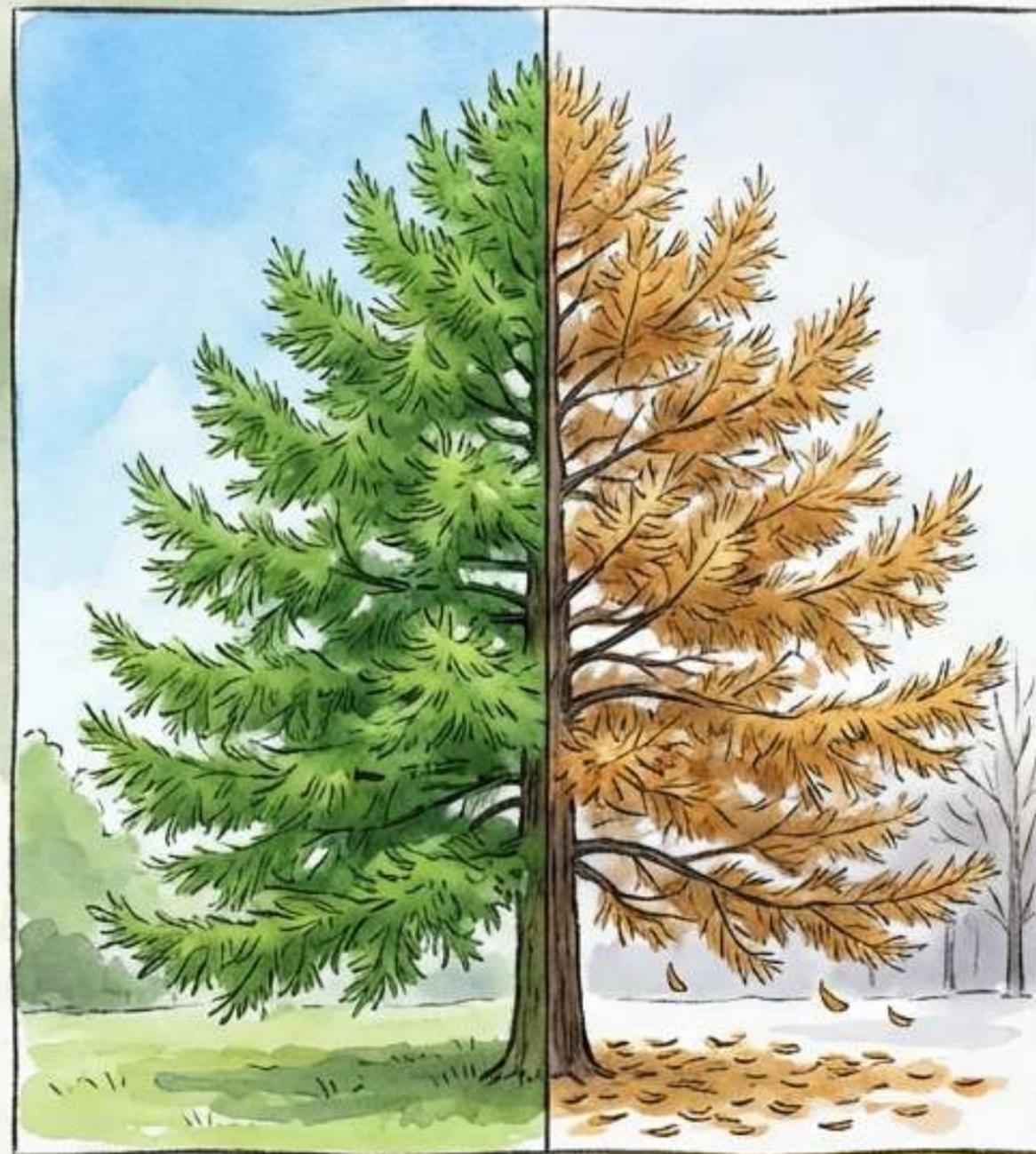
カラマツの生存戦略： なぜ針葉樹なのに葉を落とすのか？

日本の針葉樹で唯一の「落葉樹」。カラマツは、他の木が育ちにくい、寒くて乾燥した厳しい場所でも生きていける特別な木です。

葉を落とす理由

- 1. 積雪対策：葉に積もる雪の重みで枝が折れるのを防ぐ。
- 2. 乾燥対策：冬は地面が凍って水を吸えないため、葉からの水分蒸発を防ぐ「省エネモード」に入る。

人間が冬に厚いコートを着るように、植物もまた、環境に適応するための驚くべき知恵を持っています。



足元の花畑から、故郷の八ヶ岳へ

八ヶ岳（やつがたけ）とは？

「八」は数字の8ではなく、「たくさん」という意味で、多くの峰が集まっていることを表す、この地域の象徴です。

山の名前の由来（例）

- ▲ 赤岳（Akadake）：八ヶ岳の最高峰。山肌が赤茶色に見えることから名付けられた。
- ▲ 権現岳（Gongendake）：山の神様である「権現様」が祀られていることから。
- ▲ 編笠山（Amigasayama）：形が、昔の人がかぶっていた「編笠」に似ていることから。

一輪の花が、まちを元気にするサイクルを生み出す



あなたこそが、物語の語り部です

「一粒の種から、世界は変わる。」



このワークショップで子どもたちが持ち帰るものは、土のついた手と、たくさんの思い出、そして、自分たちの手で未来を少しでも良くすることができるという、小さな自信です。

皆様の言葉と導きが、その自信を育む何よりの力となります。

本日、子どもたちの未来を育む素晴らしい物語を、共に紡いでいきましょう。